

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、\_：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	百貨店（売場主任）	・11月の気温が引き続き前年並みに推移すれば、冬物衣料が堅調に動く。
		百貨店（営業担当）	・ボーナスの状況は前年並みではあるが、商品によっては購買意欲がある。
		家電量販店（企画担当）	・一部の商品は来年の北京五輪や年末年始のテレビ需要の高まりから、動きが多くなる。
		乗用車販売店（管理担当）	・市場は最大の需要期なので、今よりも販売量、売上高とも良くなる。ガソリン高が懸念されるが、株価が大きく戻すなど明るい材料もあり、景気は良くなる。
		通信会社（業務担当）	・12月は、ボーナス時期に加え、新サービスの告知もあるため、特に携帯電話の買換え需要が大きく膨らむ。
		競輪場（職員）	・発売額、入場者とも増加傾向にあるため、景気は良くなる。
	変わらない	商店街（代表者）	・商品の値上がりから、年配の客は財布のひもを締めているように見受けられる。
		百貨店（営業担当）	・クリスマス商戦を控え、盛り上がりを期待したいが、全体的には可処分所得の大幅な向上は見込めず、横ばいである。
		百貨店（売場担当）	・ボーナスの減少や、消費税引き上げの懸念から、消費マインドが低下することが懸念される。
		コンビニ（エリア担当・店長）	・本部の意向で、来客数を伸ばすためにいろいろとセールをするが、客単価が伸びないので来客数が若干増えても売上増にはつながらない。また、店周辺の人口が減っており、売上が伸び悩んでいる。2、3か月は変わらない。
		コンビニ（エリア担当・店長）	・売上上昇は見受けられるものの、原油高騰などによる商品への影響があり、購入増は急激には進まない。
		衣料品専門店（店員）	・ガソリンをはじめいろいろな物が値上がりしている割に給料は上がらないので、生活が苦しくなった、という話を頻繁に聞くようになった。景気が良くならない。
		家電量販店（店員）	・年末年始に向けて一番販売量の多い時期を迎えるが買い控えが見受けられる。原油高でどうしても灯油を使う製品が敬遠されがちで、逆に電気を使うものが売れている。具体的にいうとファンヒーターは売れずにエアコンが売れる。買い控えが起きているというのが実感である。
		家電量販店（総務担当）	・消費のけん引車が薄型テレビだけでは厳しいものがある。
		乗用車販売店（販売担当）	・車のような高額な耐久消費財について購買が慎重になる姿勢は、当分の間変わらない。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括）	・12月の燃料油の仕入価格も11月に比べ値上げの予定である。個人客は小売価格の値上り直前に車の満タン給油や灯油の買いだめをするため、瞬間的には売上が増加するが、しばらくは購入にこない状況が10月末もあった。この燃料油高が他の業界のコストアップになり、他の商品が値上げになることが懸念される。
		高級レストラン（経営者）	・12月中旬の忘年会シーズンの予約は集中しているが、その前後はまだ余裕がある状態で、この先まだまだ読めない。年明けも新年会が減ってきて、なかなか来客数の見込みが立たない。
		観光型ホテル（営業担当）	・例年どおり忘年会・新年会や大会に伴う宿泊等があり、変わらない動きとなる。
		都市型ホテル（スタッフ）	・年末の挨拶回りなどの宿泊客の動向は不透明であるが、忘年会などの受注は前年並みである。
		都市型ホテル（副支配人）	・例年の年末年始に比べ動きが非常に悪い。また、2、3月の受験シーズンの予約状況も悪い。
旅行代理店（従業員）	・日並びの良さか、年末年始の旅行は海外、国内共に良い。		
タクシー運転手	・タクシー料金が改定になり、一時的に客が減るが、料金が上がった分がそれで帳消しになり、あまり変わらない。		
タクシー運転手	・客は光熱費がかさむようになり、タクシーを使う客が減少する。		
タクシー運転手	・出控え、買い控えをする客が多く、なかにはボーナスが減額されて支給されないというところもある。物の値段が上がって飲食関係に使う金がないという客もいるため、景気は良くならない。		

	通信会社（管理担当）	・年末に向けての受注状況に改善がみられないため、今の傾向が今後も続く。
やや悪くなる	理容室（経営者）	・前年比ですっと落ちているので、良くならない。
	商店街（代表者）	・当地方は水不足のため時間給水になる。特に主婦層の外出の機会が減るので、かなりダメージを受ける。
	商店街（代表者）	・観光面での客は少し増えているが、毎日の買物客は減少している。閉店も少しずつ増えており、なかなか売上につながっていく気配がみえない。
	百貨店（営業担当）	・消費材関連の値上げや、食品表示問題で購買姿勢が慎重になるとともに、衝動買いを行わない慎重な姿勢が強まっている。また、新規クレジットカード募集においても現金志向が強く、ショッピングクレジット利用には抵抗感がみられる。
	百貨店（営業担当）	・石油価格の値上げによるいろいろな商材の原価の値上げにより、消費者の購買が控えられている。また、食品表示の問題が客のイメージとして残っており、影響が懸念される。
	百貨店（営業担当）	・市内の主要企業、中小企業では冬のボーナスがかなり厳しい状況である。消費はやや下がる。
	百貨店（販売促進担当）	・食品関連の商品の値上げが乱発されている。客は値上げと聞くだけで消費が低迷しており、この傾向が今後も続く。
	百貨店（業務担当）	・消費の回復をリードするのは最寄り品ではなく買回り品の売上増であるが、買回り品に売上増の兆候は出しておらず、この先の景気回復は期待できない。
	スーパー（店長）	・競合店の新規出店が見込まれるため、店舗間の競争がますます激化してくる。
	スーパー（店長）	・生鮮食品、一般食品にかかわらず、原材料高による需給のひっ迫が顕著になり始めた。特に水産物は産地問題や養殖関係のえさ代の高騰、商品量の減少が始まっている。この現象がほかの商品にも広がることを考えると、業界景気の先行きは厳しい。
	スーパー（店長）	・ガソリンの値上がりとともに商品価格の値上がりも出てくるので、客はより一層財布のひもを締める。
	スーパー（店長）	・支出の多い年末を迎え、原材料の高騰に伴う製品価格の上昇などの要因もあり、消費者の生活防衛意識は更に高まる。
	スーパー（総務担当）	・いろいろな商品の値上げに影響され、今後価格競争がより激しくなっていくため、景気の先行きが不安である。
	スーパー（総務担当）	・原油高に起因するガソリンの値上げや諸物価の値上げを考慮すると、消費者はものを買う量を減らす。したがって、単価は若干上がったとしても、来客数、買上点数が減少する。
	スーパー（企画担当）	・原材料価格の上昇に伴う値上げや食品表示偽装問題、年々加速する季節のずれ等、小売業を取り巻く環境は非常に厳しく、景気の良くなる要素が見当たらない。
	スーパー（経理担当）	・値上げ品目が多く、消費者も少々あきらめの雰囲気がある。売上は維持できるが、収支は悪化傾向が続く。
	コンビニ（エリア担当）	・地元の企業の給料や一時金の支給額が減額されている。また、食料品を含めたほとんどの商品の値上げがあることから、今後も厳しい状況が続く。
	家電量販店（店員）	・身の回りの生活必需品まで今後値上がりが見込まれ、消費者の財布のひもがかなり固くなる。
	住関連専門店（経営者）	・年末にかけて大型家具の需要の動きが鈍くなり、住宅着工件数が極端に少なくなっているため、新築等の置き家具の需要は見込めない。
	その他専門店〔書籍〕（代表）	・建築確認申請の停滞による建設業界の不況や暖冬のため、やや悪くなる。
都市型ホテル（総支配人）	・今後においても周辺地域でのイベント開催情報が聞かれないなか、部屋数の増加は見込まれるため、競争が激化する。	
タクシー運転手	・このところ商品が値上がりして、タクシーにも影響がかなり出ている。売上も3%ほど低下している。	
通信会社（企画担当）	・通信事業者の競合他社との競争が激化し、販促費用または販売インセンティブの高騰が懸念される。	
設計事務所（所長）	・建築確認申請を出しても窓口で滞っていて、確認が下りない。住宅にかかわらず店舗等もなかなか着工できないという状況が続いているので、景気は悪くなる。	
住宅販売会社（従業員）	・土地の売買について客の問い合わせが減っており、成約に結びつく物件も少ない。原油高による景気低迷の心配や円高で将来を心配している方が多いので、景気は悪くなる。	
悪くなる	商店街（代表者）	・車で15分ほどの隣の市に大型店が開業するので、かなり影響を受ける。

		商店街（代表者）	・原油の高騰により、食料品やガソリン、生活必需品の値上げが起こるため、財布のひもは一段と固くなる。
		一般小売店〔青果〕（店長）	・原油の高騰がかなり客の購買心を妨げている。中央市場関係では、ガソリンの高騰で輸送コストがかなり上がってきて、なかなか安いものが入らない。
		百貨店（営業担当）	・サブプライム問題のほか株価も非常に不安定で、生活者には防衛感が出ている。生活必需品を含めて値上げの傾向にあり、なかなかその他のところには金が回らず、ボーナスについても貯蓄に回る。
		コンビニ（販売促進担当）	・パンの価格改定で値上げに踏み切るが、資材や物流費も上がる。量販店は特売の繰り返しで、購買量は増えるがそれに対する1個あたりの利益幅が非常に低い。今後は悪くなる。
		その他専門店〔書籍〕（店長）	・原油高、サブプライムローン問題の影響などによる株価の下落で、庶民の懐が不安定な状態になっている。消費者はますます無駄な出費をしなくなるため、景気は後退する。
		高級レストラン（経営者）	・忘年会の予約も少ない上に、年明けもほとんど予約がない。景気は悪くなる。
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	建設業（総務担当）	・建築確認申請の受理の遅れた案件が着工になり、年明け早々100所帯程度のマンションの着工の下請を受注できそうである。景気は良くなる。
	変わらない	農林水産業（経営者）	・1、2月は前年と違って平年並みの寒さということなので、鍋物が期待できる。
		農林水産業（従業員）	・飼料価格については非常に厳しいなかで、プロイラーの販売価格が上がってきている。この傾向はこのままあと数か月続くと思われる。
		食料品製造業（経営者）	・得意先の来客数がやや減少傾向で、客単価も伸び悩んでいる。数年前に比べ、ピークの山と谷の差が縮まり、裾野が広がっているものの、売上増加には結び付いていない。
		金属製品製造業（企画担当）	・受注量は季節的要因で増えてきているが、原材料の高止まりで収支は依然として厳しい。この傾向が今後も続く。
		輸送用機械器具製造業（営業担当）	・コスト割れの仕事が多く、現状維持か縮小傾向に向かう。
		通信業（職員）	・今年度の折衝件名はほぼ出つくしており、受注目標を達成できない可能性がある。
		金融業（得意先担当）	・発注はかなりあるが、金額が小さく、また業者同士の取り合いがあり、弱いところはかなり厳しい。現在も倒産廃業等の中で建設業の件数が多くなっており、多少良くなったとはいえ、現状とあまり変わらない。
		経営コンサルタント	・受注価格そのものがほとんど固定してしまった感がある。この傾向が今後も続く。
	その他サービス業〔物リース〕（従業員）	・引き合いの案件自体は底堅く推移しているものの、取引先が金利動向や原油価格を含めたコストアップ要因も慎重に見極めていく状態が続いている気配があり、当面この状態が続く。	
	やや悪くなる	食料品製造業（経営者）	・中小企業はコストアップ分を簡単に商品価格に上乗せ出来ない状況である。今後、中小企業にとってはガソリン等の価格上昇の影響は更に厳しくなる。
		家具製造業（従業員）	・不安材料ばかりで楽観的な要因が何もない。原材料の高騰はまだ続いているが、価格を上げると販売量も落ち込んでしまい、売上、利益とも減少気味である。
		一般機械器具製造業（経営者）	・自動車関連及び他分野も新規品の見積が極端に少ない。このような状況では先の見通しが立たない。
		一般機械器具製造業（経営者）	・現状は2、3か月前に受注した仕事があるが、今後採算性の悪い仕事を確保する事になり、先行きの景気は衰退する。
		輸送業（総務担当）	・燃料費や外注費が上がっているが、値上げは出来ない。同様の中小企業も多く、今後は影響が出てくる。
金融業（調査担当）		・原油価格の上昇、建築基準法の改正、円高の進行等の影響で、当面は下方圧力が強い。	
不動産業（従業員）		・賃貸物件の入居率が下降気味である。この傾向が今後も続く。	
悪くなる	経営コンサルタント	・温暖な気候が続き、特に衣料品関係は売れなくて苦勞する。	
	繊維工業（営業担当）	・先の見えない不景気感がある。円高の進行から海外での生産が息を吹き返してくれば、地方の工場は不景気になっていく。	

		鉄鋼業（経営者）	・改正建築基準法の施行以降、月を追うごとに新規建築物は減少しており、現在では新規の見積・契約はほとんどない状態である。製品出荷は契約残を消化しているが、特に9月以降の落ち込みは大きく、新規住宅着工数・建築床面積など足元で大きく後退していることから、今後は今まで以上に需要が減退する。
		電気機械器具製造業（経営者）	・取引先の大手企業は、自動車、電気関係全般的に輸出が非常に鈍るとの見通しを出しているため、今後は悪くなる。
		建設業（従業員）	・石油製品の高騰による経費への転嫁が懸念される。また、建築確認申請の認可までに掛かる時間が伸びているため、着工するまでに時間が掛かり、多方面に影響が出始めている。
		輸送業（従業員）	・原油高の影響から、同業者を含め荷動きが極端に落ちている。来月から更に軽油価格の高騰が予測されるなか、荷主企業・同業者の景気は確実に悪くなっていく。
		広告代理店（従業員）	・11月は新聞折込広告枚数が前年比90%となり、先月に引き続き悪い数字となった。特に10ポイントダウンはここ3年間で初めての数字となった。なかでも比較的安定していた娯楽産業がここにきて減少したほか、流通部門・不動産部門も更に減少傾向にある。原油価格の高騰が紙代に影響し、枚数が削減されている。
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	人材派遣会社（社員） 人材派遣会社（社員）	・年度末の業務が増え、短期的な仕事の問い合わせはある。 ・以前より企業の状況が良いという話を聞くことが増えている。
	変わらない	新聞社 [ 求人広告 ] （担当者）	・当地区では製造業の比率が高く、求人募集はそこそこあるが、給与収入の水準が低いため、景気に好影響を与えるには至らない。
		職業安定所（職員）	・雇用保険に加入している被保険者数はここ何か月徐々に増えてきている。少しずつ伸びていく傾向は変わらない。
		学校 [ 大学 ]（就職担当者）	・企業側の高水準かつ安定的な求人意欲は大きな変化がない。
	やや悪くなる	新聞社 [ 求人広告 ] （担当者）	・唯一元気だった遊戯業（パチンコ）も大幅な顧客の減少が顕著である。今後の広告などへの影響が懸念される。
		職業安定所（職員）	・原油高騰により全産業が打撃を受け、雇用面に悪影響を及ぼすことが予想される。失業による離職者の増加が見込まれる。
		職業安定所（職員）	・増員を行う企業と行わない企業が同時に存在しており、どちらかという地場企業にとって明るい見通しが少ない。
		職業安定所（職員）	・前月以降、新規求職者数が前年を上回っている。石油や原材料高騰の影響を受け、非常に厳しい業種もあるようで、機械器具製造業で事業所を閉鎖したという事例もあり、今後は悪くなる。
		民間職業紹介機関（支店長）	・年末年始から年度末・新年度の人材需要の動きが前年よりも鈍い。長期契約の商談が少なく、かつ高いレベルのスキルの人材でなければ採用側が非常に慎重な姿勢をとっている。
悪くなる	-	-	